REVIEW in Edinburgh Festival Fringe 2009　The Original Tempo

2009 年エジンバラ・フェスティバル・フリンジ開催期間中の各種メディアによる劇評を掲載します。（翻訳・抜粋）

★は作品評価。エジンバラ・フェスティバル・フリンジではメディアの多くが、作品評価を★で示します。最高は 5 つ星。

British Theatre Guide　★★★★★

今年は家族向けの素晴らしいショーが、たくさんあるように思う。昨年に引き続き 2 年目のお笑いを引っ提げてフリンジ演劇祭に戻ってきた「黄色のレインコート集団」は、15 ～ 25 歳の観客を狙っているように思われるが、それ以外の年齢層の方も、ぜひ彼らの作品をご覧あれ。（**中略**）

このショーでは「今のどうやってやったんだろう!?」と思えるほど私達の眼を眩ましたり、びっくりさせたりするような演出を沢山の電子装置を駆使して魅せてくれる。（**中略**） しかも彼らは（全く必要としていないのに）、これらの全てのドタバタをひとつに結びつけるストーリーを言葉によってではなく― というか、発することのできない「言葉」で語り、作り上げている。

とても魅力的で愛嬌のある「黄色のレインコート集団」。この集団は説明不要、全ての年齢層の人に向けて、絶対必見とオススメしたい団体だ。

Catherine Lamm

http://www.britishtheatreguide.info/otherresources/fringe/fringe09-75.htm#SU

The List　★★★★

Shut up, Play!!は、テレビゲームの「塊魂（かたまりだましい）」や少し不思議なアニメの世界のように愉快で、それでいて無秩序で混沌とした日本の文化的な表現方法を使い、それを技術力と想像力を生かして、ライブステージで表現しているユニークな作品だ。巧妙な影のパフォーマンス、うっとりさせるような音の世界、ポテトチップスを取り入れたり、水に浸かったり、テレビの中に入ってしまった頭を叩き続けたり、すべてが好奇心をそそる楽しさと、シンプルさの中から見出せる芸術性にあふれている。

とても精巧につくられているが、それは機械的すぎる Mac のようなものではでは生み出すことができない。（**中略**） たくさんのユーモアがありながら、芸術性、演劇性、音楽性などを兼ねそろえたすばらしいパフォーマンスである。

Thomas Meek

Aug 23.2009

http://edinburghfestival.list.co.uk/article/20344-shut-up-play/

Hairline Magazine　★★★★

このすばらしくおかしな時間は、日本のパフォーマー The Original Tempo と言葉を発さない彼らの「遊び」から生まれる。ただ沈黙は期待できない。この作品は、いろいろなものを叩いて音を創るミュージシャンや俳優、ダンスナンバーやすばらしく独創的な映像でいっぱいだからだ。これらのアイディアは彼らを野放しにし、抽象的な想像力と輝きで観客を感嘆させる。（**中略**） しっかりとしていて、楽しくて、本当に面白い。これは、ファンタスティックでウィットがあり、イマジネーションに富んでいて、観客が初めから終わりまで満面に笑みを浮かべていられる作品だ。

Martin Miller

Aug 17.2009

http://hairline.org.uk/2009/08/17/shut-up -play/

Fringe Festival Insider ★★★★

今年のフェスティバルはアジアからの参加が少なく、私をやや失望させた。（**中略**） しかし、この問題に関して The Orignal Tempo が1時間の無鉄砲なから騒ぎ－－ Shut up, Play!!で、大きな役割を果たしてくれた。

Shut up, Play!!は純粋な才能の瞬間を含んでいて、本フェスティバルで人気の「が～まるちょば」のように狂気的であり魅力的である。（**中略**）

そのような文化的な糸口や、フリンジ演劇祭で現れるテーマを観察することは常に魅力的である。そして、それがアクシデントであるにせよ、デザインされたものであるにせよ、このショーが彼ら自身のメリット（気持ちを抑えがたくなるような、全く魅力的で混沌とした一片のジャパニーズ・コメディであること）の上で、最後まで輝くのは The Original Tempo 自身の功績にによるものである。

Keith D

Aug 28.2009at 9:49 AM

http://edinfest.blogspot.com/2009/08/review-shut-up-play.html

Fringe Report （ review のみ）

黄色いレインコートを着た演者たちがステージ中を動き回り、手にするあらゆる物から愉快な音を作り出す。（**中略**） 演者たちは体やセット、舞台上にある様々な物といくつかの普通の楽器を使い表現する。彼らは素晴らしいダンスパートのために、サンプリングされた声を使い音楽を創作する。複雑で細かに準備された本作品では即興パフォーマンスと観客とのコラボレーションもある。押し付けがましくなく、実に楽しい。（**中略**）

The Orignal Tempo は、力強いコミュニケーションの磨き上げられた楽器である。――とぎすまされ、内から笑いがこみあげ、思考が解放される。彼らは、積み重ねた意図を個々のボディーランゲージを通して染み出させ、人々の感覚を完全に解放する。彼らは、日常の中から共有すべき喜びを見つけ出す。

Lilian Kennedy Brziska

Aug 16.2009

http://www.fringereport.com/0908shutupplay.php

MUSICAL THEATRE MATTERS （ review のみ）

これはひょっとしたら今年のフリンジの中で最も洗練された、心から歓迎したいカンパニーかも知れない。（**中略**）

演者たちは、繰り返すポップアップ絵本の世界、パペットリー、ロックミュージック、水を使って奇妙な音をつくるといった観客を幸せに運び去るような何とも楽しい感覚をもった、音や動きという世界共通の言語で、お互いや観客とコミュニケーションをとる。

このショウが我々にくれるものは、我々が生み出すことが出来るリズム、トーン、ピッチの無数の方法と、音への賞賛である。テクノロジーの革新的な使用方法はとても楽しく、私は、劇場(SweetECA)に行ってこのバカバカしさをエンジョイするよう、皆さんにお勧めする。そうすれば一日中笑顔でいられる… これはおそらくミュージカルシアターではなく、本質的にはすべてのものに対するひらめきである。

Aug 14.2009

http://www.musicaltheatrematters.org.uk/shut-up-play